

安全データシート

1.化学物質及び会社情報

化学物質等の名称
品番

クリーニングブラシ C
A5063

会社情報

会社名
住所
担当部門

白光株式会社
大阪市浪速区塩草 2 丁目 4 番 5 号
R&D センター

緊急連絡先 / 問い合わせ先

担当部門
緊急連絡電話番号
FAX 番号
メールアドレス

品質保証環境室
06-6561-1574
06-6568-0821
cs@hakko.com

2.危険有害性の要約

化学品の GHS 分類 分類できない又は区分に該当しない

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル
注意喚起語
危険有害性情報

なし
なし
なし

3.組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 化学物質

成分に関する情報 ブラシ部

成分	化学式	含有量 wt%	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法	安衛法	
4F-PFAVE 共重合物	$-(CF_2CF_2)_m-$ $(CF_2-CF_2ORf)_n-$	100	6-944	6-944	26655-00-5

4.応急措置

吸入した場合	吸入による危険有害性は無いと考えられる。 加熱または燃焼によるヒュームを吸い込んだ場合には、空気が清浄な場所に移し、医師の診断を受ける。 症状が継続する場合は医師の診断を受けること。
皮膚に付着した場合	接触による危険有害性はないが、取り扱い後には石鹼で洗う。 融解ポリマーに接触したら、冷水で皮膚を急速に冷やす。 皮膚からポリマーを剥がさない。
目に入った場合	やけどをした場合は医師の手当てを受ける。 直ちに多量の水で15分以上流し、できればコンタクトレンズを外す。
飲み込んだ場合	異常がある場合は医師の手当てを受ける。 少量飲み込んででも危険有害性はほとんどないと考えられる。 異常がある場合は医師の手当てを受ける。

5.火災時の措置

適切な消火剤	水の噴霧、泡消火剤、二酸化炭素(CO ₂)、乾燥砂、粉末
使ってはならない消火剤	なし
火災時の特有の危険有害性	火災時には、フッ化水素、フッ化カルボニル、一酸化炭素および二酸化炭素が発生する可能性がある。
特有の消火方法	自己消火性で燃えにくい物質であるが、周辺で火災が発生した時は、火元の燃焼源を絶ち、消火剤を使用して消火作業を行う。 酸素濃度が95%以上の雰囲気では着火源があると燃焼する。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	火災の際は自給式呼吸器および全身保護衣を着用しなければならない。 火災により生じた本製品の廃棄物を取り扱うときはクロロプレン製手袋を着用する。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	適切な保護具を着用する。
環境に対する注意事項	河川等へ排出しないこと。環境への影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	漏出物は、密封できる容器に回収し、安全な場所に移す。 付着物、廃棄物などは関係法規に基づいて処理すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	安全眼鏡を着用する。
安全取扱注意事項	溶融ポリマーが飛散するおそれがある場合には、眼及び顔を保護するため保護面を着用する。 ポリマー粉塵が煙草に付着することを避ける。
適切な衛生対策	取り扱った後、手を洗うこと。

保管

安全な保管条件	直射日光が入らない、涼しく乾燥した場所に貯蔵すること。
安全な容器包装材料	データなし。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度(暴露限界値)および管理濃度

日本産業衛生学会

物質	タイプ	数値	形状
4F-PFAVE 共重合物 (CAS 26655-00-5)	TWA	2mg/m ³	(吸入性粉塵)

ACGIH

物質	タイプ	数値	形状
4F-PFAVE 共重合物 (CAS 26655-00-5)	TWA	3mg/m ³	(吸入性粉塵)

保護具

呼吸用保護具	適切な呼吸保護具を着用する。
手の保護具	皮膚に接触しないような衣服を着用する。
眼、顔面の保護具	適切な保護具を着用する。
皮膚及び身体の保護具	必要に応じて着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	固体
色	無色透明～白色
臭い	データなし
融点／凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし

可燃性	難燃性
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	データなし
n-オクタノール／水分配係数 (log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度又は相対密度	2.12 - 2.17 g/cm ³ (23°C)
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10.安定性及び反応性

反応性	データなし
化学的安定性	常温常圧で安定
危険有害反応可能性	260°C以上で極めてゆっくりだが分解を始める。400°Cでは分解速度が速くなる。
避けるべき条件	なし
混触危険物質	なし
危険有害な分解生成物	なし

11.有害性情報

急性毒性	LD50(経口) ラット >11,000 mg/kg
皮膚腐食性／刺激性	データなし
目に対する重篤な損傷性／眼刺激性	異物感を与え粘膜を刺激する。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	日本産業衛生学会、ACGIH、NTP のいずれにも記載なし。 IARC: Group3
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データなし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データなし
誤えん有害性	データなし
その他	加熱するとヒュームが発生し、これを吸収すると眼、鼻および肺に刺激を生じることがある。

(熱分解ガス)

フッ化水素

低濃度のフッ化水素を吸入すると、まず息苦しくなり、咳が出て眼、鼻及びのどに重度の刺激を生じ、熱、悪寒が1～2日続いた後、呼吸困難、チアノーゼ及び肺水腫が起こる。短期・長期に高濃度で暴露すると肝臓および腎臓を損傷する。

フッ化カルボニル

皮膚・・・不快感または発疹を生ずる。
 眼・・・角膜または結膜の潰瘍を生ずる。
 呼吸器系・・・刺激
 肺・・・咳、不快感、呼吸困難、又は息切れ等の一時的な刺激を生ずる。

12.環境影響情報

生態毒性	漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取り扱いに注意する。特に、製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。
残留性・分解性	データなし
生態蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし
その他	極めて不活性であり、影響はないと考えられる。

13.廃棄上の注意

残余廃棄物：	残った製品(残余廃棄物)は、廃棄物の処理および清掃に関する法律、及び、都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。 排水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても、廃棄物の処理および清掃に関する法律および関係する法規に従って処理を行うか、委託をすること。
汚染容器および包装地域の廃棄規制	専用の容器に保管廃棄する。 機器装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。 廃棄物処理法の許可を受けた業者に処理を委託する。

14.輸送上の注意

IATA(国際航空運送協会)	危険物には該当しない。
IMDG(国際海上危険物規則)	危険物には該当しない。
MARPOL73/78 付属書 II 及び、 IBC コードによるばら積み輸送 される液体物質	該当しない。
国内規制	国内輸送については 15.適用法令に従うこと。 運搬に際しては、40℃以下に保ち、転倒、落下、損傷がないよう に注意すること。

15.適用法令

化学物質排出把握管理促進法 (化管法)	第一種特定化学物質、第二種特定化学物質、監視化学物質、 優先評価化学物質、届出不要物質に該当しない。
労働安全衛生法(安衛法)	通知対象物、表示対象物に該当しない。
毒物及び劇物取締法(毒劇法)	特定毒物、毒物、劇物に該当しない。
化学物質排出把握管理促進法	特定第一種指定化学物質、第一種指定化学物質、第二種指定化学 物質に該当しない。
船舶安全法・危規則	該当しない。
航空法・施行規則	該当しない。
火薬類取締法	該当しない。

16.その他の情報

出典 製造事業者の SDS

本データは現時点で入手できる情報、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。記載内容は通常の使用状態におけるものであり、危険有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、使用におかれましては、用途、用法に適した安全対策を実施の上、ご使用下さい。

改訂履歴

改訂日	内容
2020年11月30日	初版発行